



記事広告と名刺広告で、19年間続く評価事業の情報を発信

事業者と利用者が協働して介護サービス向上へ 名古屋市 介護サービス事業者自己評価・ユーザー評価事業

名古屋市内の介護事業所の任意団体、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）からユーザー評価事業を中日新聞で取り上げて欲しいと言われたのは昨年10月。次年度の評価が始まるタイミングを見計らい、時間をかけて紙面の内容を相談しながらユーザー評価事業に参加している事業所や会員法人から50事業所を集め掲載に至った。

Main article content including photos of participants, quotes from Yonekura Masahiko, Yamaki Ryoji, and Yamashita Chikako, and the '名古屋方式' (Nagoya Style) evaluation method.

名介研は名古屋市を中心に1600を超える介護事業所が加盟している民間団体。利用者本人やその家族に信頼されるサービスの向上を目的に、事業所同士の意見交換や研修を主な活動としている。ユーザー評価事業とは、介護事業所の自己評価と利用者や家族からの評価の集計とフィードバック。名古屋市と共催で19年間続けられているこの評価は、

Grid of 50 business cards for participating care facilities, including names like アイシア吹上, NPO法人安らぎ, and others.

今年度から、10年連続でユーザー評価事業に参加している事業所が名古屋市から表彰されるようになった。長い月日に為された不断の努力を報い、その社会的意義を広く伝えていくことも新聞広告の役割になりうるのかもしれない。

名古屋本社 広告三部 安藤 香
記事広告では、ユーザー評価事業検討委員会の方と、名介研事務局の担当者に登場いただき、事業の概要や目的、効果などを伝えました。参加事業所や会員法人など50事業者を集めて掲載した名刺広告では、広告内にQRコードも配置しています。